

発電所だより

11月号

平成25年11月発行 東北電力株女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tohoku-epco.co.jp/>

《私たち こんな仕事をしています》

女川原子力発電所では、現在、定期検査や各種安全対策工事などを行っており、協力企業の皆さんも含めると約2,000人（このうち東北電力社員は約500人）の関係者が働いています。「発電所だより」では、発電所で働く所員を通して女川原子力発電所の「今」を紹介しています（随時掲載）。

今回は、さらなる安全対策として、大容量電源装置や高台電源センターなどの電源強化対策を担当している保全部 電気グループの登場です。



保全部 電気グループ

100ボルトから27万ボルトまで“電気のプロ”として発電所電気設備の“健康”管理を担当。電源強化に関わる安全対策も実施。

震災後に、大容量電源装置や高台電源センターといった安全対策を実施していますね。

発電所構内の海拔52mの高台に空冷式の大型発電機「大容量電源装置」、海拔60mには電源車6台を常時配備する「高台電源センター」を設置しました。

万一来備え、日頃から様々な状況を想定した操作訓練を繰り返し行っています。



▶高台電源センターでは、あらかじめ電源車と高圧電源盤との接続ケーブルが敷設されているため、より迅速な電源供給が可能

それらはどのような役割を担っているのですか。

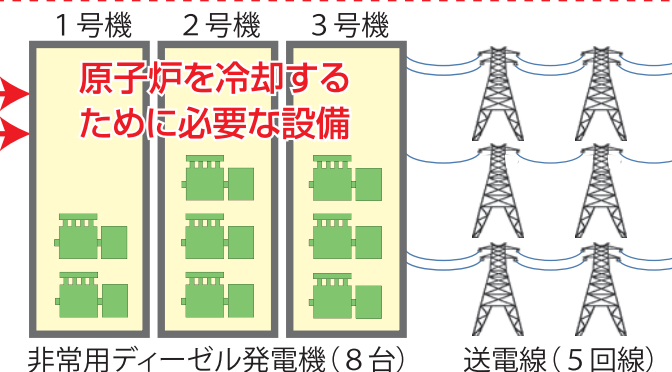
東日本大震災時には、送電線からの電気が使えなかったことから（非常用ディーゼル発電機も使用可能）、原子炉を安全に冷温停止に導くことができました。

震災後、発電所の安全性をより高めるため、新たな電源供給手段として、これらの設備を新設し、電源供給のさらなる多様化を図りました。

女川原子力発電所の電源確保イメージ



送電線からの電気、非常用ディーゼル発電機とも使用できない緊急時に別のルート（赤色のルート）から原子炉を冷却するために必要な設備へ電源を供給します。また、電源車は1～3号機の各建物に寄り付いて直接送電することも可能です。



▶協力会社の皆さんとともに安全対策を検討

グループの“売り”はチームワークとのことですが。

電気グループは石巻市出身者4人（課長は旧牡鹿町出身）をはじめとする25人の大所帯です。

所内の卓球職場対抗戦では、持ち前のチームワークを発揮し、好成績を収めました。昼休みの卓球は、気軽に楽しめるので職場のコミュニケーションにも最適ですよ。

《「牡鹿鯨まつり復活祭」に参加しました》

10月13日、捕鯨の町、牡鹿の文化を伝承する祭り「牡鹿鯨まつり復活祭」(主催：牡鹿鯨まつり復活祭実行委員会)が行われました。

会場では、鯨肉、旬のホタテやカキ等の炭火焼き無料試食コーナーに長蛇の列ができたほか、地元小中学生によるソーランや太鼓に大きな拍手が送られるなど大いに賑わいました。

当発電所もイベント会場に当社のキャラクターである“マカプゥ”の大型遊具を設置したほか、風船を配布し、多くの子どもたちに喜んでいただきました。



《女川小学校で放射線出前講座を開催しました》

9月30日、女川小学校の5年生47人を対象に、放射線出前講座を開催しました。



当日は、東北放射線科学センターより講師を招き、放射線の基礎的な知識に関する講義に加え、測定器を用いた身の回りの放射線の観察実験などを行いました。

参加した児童からは「授業を受ける前は放射線が不安だったけど、普段から身近にあるもので、日常生活に影響がないことが分かった」といった感想が寄せられました。

《発電所周辺道路の美化活動を行いました》

9月25日、発電所員と構内協力企業の社員約100人が発電所周辺道路の清掃活動を行いました。

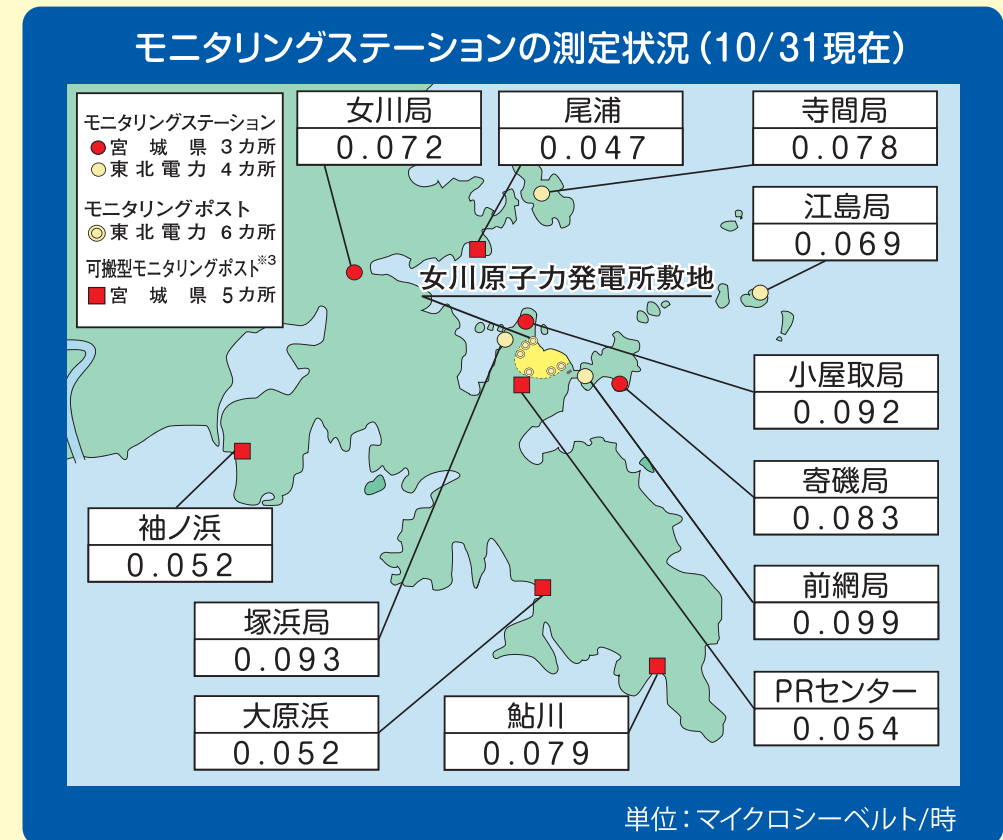
発電所周辺の約6kmの区間で、道路沿いに落ちていた空き缶やビン、ペットボトルなど約80袋分のゴミを回収しました。



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.069マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、至近6カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングポストの最小値と最大値		
平成23年	3月11日	0.027~0.064
	3月13日	1.8~21※4
平成25年	5月1日	0.053~0.074
	6月1日	0.052~0.073
	7月1日	0.051~0.071
	8月1日	0.048~0.076
	9月1日	0.051~0.078
	10月1日	0.049~0.071
	10月31日	0.048~0.069

単位：マイクロシーベルト/時